

日本線虫学会ニュース

The Japanese Nematological Society News

目次

◆ 会長就任挨拶：オンラインで伝える思い（奈良部 孝）	1
◆ 2021~2022 年度学会運営体制（学会事務局）	3
◆ 日本の線虫拠点紹介シリーズ第 23 回 「農研機構 植物防疫研究部門（つくば）」（酒井 啓充）	4
◆ 自己紹介（与謝野 舜）	5
◆ 編集後記	6

会長就任挨拶：オンラインで伝える思い

奈良部 孝（農研機構 北農研）

昨年度末の会長選挙において、2021-2022 年度線虫学会会長に再選されました。多くの会員の皆様に投票いただき、感謝申し上げます。至らぬ会長ではありますが、今後 2 年間よろしくお願いいたします。

さて、開催自体が危ぶまれていたオリンピック・パラリンピック 2020 東京大会は、国民的議論が進まない中、なし崩し的に開催が決定し、一部を除き無観客で実施するようです。このような状況下で国内・海外から参加する選手の方々の気持ちを推察すると、心痛む思いです。苦難を乗り越え、ようやく東京 2020 大会のスタート台に立った選手の皆さんには、せめてテレビの前で大きな声援を送ることで、気持ちを伝えたいと思っています。

同じく、こちらもなかなか決まらない、線虫

学会 2021 大会ですが、岩堀大会会長（龍谷大農）を中心に、秋にオンラインで開催する方向で準備を進めています。本ニュースで日時と開催方法だけでもアナウンスする予定でしたが、後日、学会 HP と会員メールにてお知らせすることになります。今からご準備よろしく申し上げます。

オンライン大会は、参加者仲間が隣にいるわけではなく、同じ空間でグラス片手に名物料理を食べながら議論するわけでもなく、なんとなく「無観客試合」を連想するかも知れません。しかし、2021 線虫学会オンライン大会では、小規模学会の強み？を生かし、線虫仲間を身近に感じる場となることを期待します。昨年実施した「線虫学ミーティング 2020」（11/10 開催）はそのような雰囲気を感じるオンライン集会

でした。今回も、オンラインから送る声、時に鋭い質問であったり、時に若手に対する応援や賞賛メッセージだったり、が、遠いテレビの向こうからではなく、「思い」だけは目の前で響くような、そんな演出ができればと思っています。

コロナ禍が終息した頃には、龍谷大に皆で集まって、盛大なシンポジウムと懇親会を開催したいものです。湖上の風を感じながらの琵琶湖クルーズも楽しそうですね。その頃は、コロナ禍の終息を祝うかのような、一大旅行ブームが到来しているのでしょうか。それともオンライン

生活が世の中のスタンダードに置き換わり、多くの人がリアルの会議や出張を敬遠し、オンラインと（少数派の）リアルのハイブリッドが主流になっているのでしょうか。今後コロナ禍がいつまで続くかにより、以後のライフスタイルが決まってくることでしょう。

どのようなスタイルになろうとも、いつもワクワクする発表が聞けて、自由闊達に線虫の議論ができる線虫学会・大会が継続することを願っています。

2021~2022 年度学会運営体制

学会事務局

会長選挙および評議員選挙の結果、ならびに評議員会の承認を得て、2021~2022 年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、選挙結果については本学会ウェブサイト (<http://senchug.org/>) をご覧ください。

会長：

奈良部 孝（農研機構 北農研）

選挙管理委員：

小鍵 亮介（雪印種苗（株））

荻野 瑠衣（道総研 中央農試）

評議員：

長谷川 浩一（中部大学）

岩堀 英晶（龍谷大学）

神崎 菜摘（森林総研 関西支所）

小坂 肇（森林総研）

串田 篤彦（農研機構 北農研）

岡田 浩明（農研機構 植防研）

新屋 良治（明治大学）

竹内 祐子（京都大学）

植原 健人（農研機構 中農研）

吉賀 豊司（佐賀大学）

会計監査候補（総会の承認を得て決定）：

林 琴美（ホクサン（株））

佐久間 太（雪印種苗（株））

編集委員長：

岩堀 英晶

編集委員：

相川 拓也（森林総研 東北支所）

Gaspard, J. T. ((有) ネマテンケン)

岩堀 英晶

神崎 菜摘

菊地 泰生（宮崎大学）

小坂 肇

串田 篤彦

Oka, Yuji（イスラエル農業省）

岡田 浩明

新屋 良治

竹内 祐子

立石 靖（農研機構 植防研）

豊田 剛己（東京農工大学）

上杉 謙太（農研機構 植防研）

吉賀 豊司

（以上、役職ごとにアルファベット順）

事務局長：

長谷川 浩一

会計幹事：

伊藤 賢治（農研機構 北農研）

庶務幹事（庶務）：

坂田 至（農研機構 北農研）

庶務幹事（広報）：

酒井 啓充（農研機構 植防研）

与謝野 舜（農研機構 植防研）

編集幹事：

相場 聡（農研機構 北農研）

北上 雄大（三重大学）

村田 岳（農研機構 植防研）

小澤 壮太（森林総研 東北支所）

日本の線虫拠点紹介シリーズ第23回 「農研機構 植物防疫研究部門（つくば）」

酒井 啓充（農研機構 植防研）

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）においては、令和3年度より第5期中長期計画（5年間）が開始され、本計画の実施に伴う組織改編により植物防疫研究部門（植防研）が新たに設置されました（<https://www.naro.go.jp/laboratory/nipp/index.html>）。植物の病害虫・雑草防除に関する研究開発を行うため、農研機構内の病害虫・雑草研究者を集めて組織されています。つくば地区においては、中央農業研究センター（中央農研）の線虫害グループがなくなり、研究員3名が植防研に配置換えとなりました。その他、九州沖縄農業研究センター（九沖農研）から1名、そして北海道農業研究センター（北農研）から筆者が植防研に配置換えとなり、植防研（つくば）の線虫研究は5人体制となっています。5人の所属は以下のとおりです。

岡田・酒井・与謝野：
基盤防除技術研究領域
越境性・高リスク病害虫対策グループ

立石・上杉：
作物病害虫防除研究領域
病害虫防除支援技術グループ

岡田・酒井・与謝野の3名は旧・線虫害グループの居室におり、グループ名からもお察しのとおり、テンサイシストセンチュウや他の未侵入線虫種の研究を主に行います。ちなみに、再雇用最終年の荒城さんも同グループに属しています（農環研地区）。

立石・上杉の2名は二つ隣の部屋に居を構えて、国内既発生線虫の防除に関する研究を主に行います。なお、現在線虫は担当されていませんが、土壌病害の研究をされている佐藤さんも病害虫防除支援技術グループに属しています（線虫組とは別室）。

植防研の人員はつくば地区以外にも配置されており、九沖農研（熊本県合志市）の吉田・村田の2名も植防研に配置換えとなりましたが、そのまま合志駐在となっています。合志の様子については、九沖農研拠点シリーズ記事（ニュース No. 79）をご参照ください。

一方、中央農研は^{なかにほん}中日本農業研究センター（中農研）に改組となり、以前線虫害グループに所属していた植原さんが産学連携コーディネーターとして中央農研から引き続き在籍しています。中央農研の沿革については、旧・中央農研（中央農業総合研究センター）拠点シリーズ記事（ニュース No. 54）を筆者が過去に執筆していますので、併せてご参照ください。



写真1. 第2研究本館エントランスの案内
同じ建物に5つの組織（色違い）が混在しています。線虫研究担当者はみな4階にいます。

植防研（つくば）の線虫研究担当者の居室は第2研究本館という建物にあります（写真1）。

コロナ禍が落ち着き、お近くにお越しになる際には、気軽にお立ち寄りください。

自己紹介

与謝野 舜（農研機構 植防研）

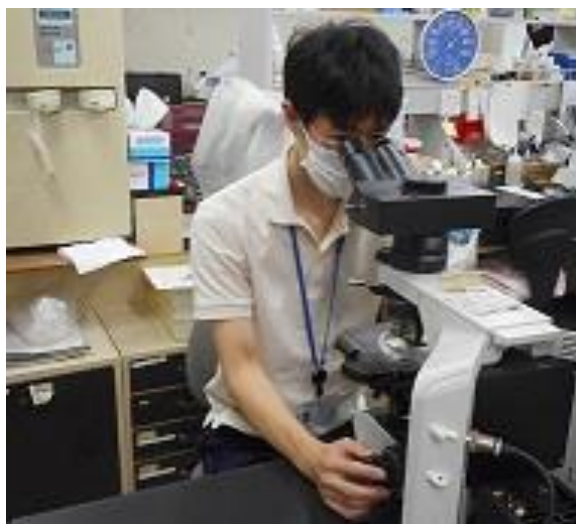
農研機構 植物防疫研究部門 越境性・高リスク病害虫対策グループの与謝野舜と申します。線虫学会には2020年から参加させていただいています。この度、機会をいただきましたので、簡単ではありますが自己紹介をさせていただきます。

農研機構には2020年4月に入構しました。当時はコロナウイルスによって全国的に緊急事態宣言が発令されている頃で、慣れない土地にきて、何も分からないままコロナ対応で自宅待機となるという、なんとも言えないスタートでした。農研機構に入る前は東北大学大学院農学研究科で、昆虫の味認識に関する研究を行っていました。昆虫の味認識といってもいろいろとありますが、私はコウチュウ目ハムシ科を中心に脚に存在する化学受容器（味覚感覚子）の普遍性や役割について、形態学、電気生理学、行動学の3つの観点から解明するというテーマで研究を行っていました。

線虫害グループには昨年の5月頃から配属されました。昨年の1年間は、土壌から分離されてくる線虫を実際に見たこともなかった私にとっては見る物のほとんどすべてが新鮮でしたが、同時に線虫について知らないこと、分からないことだらけで焦りを感じた1年でした。特に線虫の形態や識別に関してはさっぱり分からず、それについて教えてくださる先輩方の存在のありがたさを痛感しました。プライベ

ートではコロナウイルスのせいで外出しづらく、つくば市内の近場の店すらわからないまま1年が経過してしまいました。少しでも早くコロナ禍が収束し、気兼ねなく出かけられるようになればと思っています。

線虫をやると知らされてから1年経った今年度からは組織改編で所属も植物防疫研究部門に変わり、テンサイシストセンチュウの防除に関する研究を行っていくこととなりました。線虫に関してはまだまだ素人同然ですが、学会などで皆様に実際にお会いできた際には研究についての議論はもとより、いろいろなことについてお話しできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



筆者近影



編集後記

◆北農研から植防研（つくば）に異動しました。札幌に慣れていたので、転居してしばらくしてから湿度が気になるようになりました。ゴキブリとも無縁だったのですが、また対決する日が来るのでしょうか……。さて、今期よりニュースを担当するのは庶務幹事（広報）となります。併せて、これまでニュース編集を支えてくれた村田さんがニュース担当から退き編集幹事になります。校正能力が高くニュース編集への貢献が大変大きかったです。これまで長い間おつかれさまでした。村田さんの後任として、植防研の与謝野さんが担当しますので、引き続きよろしくお願いします。（酒井）

「フジワラ」の線虫関連機器

ペーパークロマト法によって線虫を分離
線虫分離装置



シスト線虫の分離に
シスト分離装置



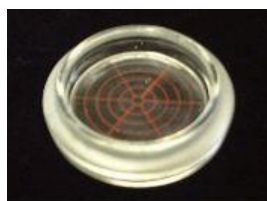
裏表両方から視察できる
H-S スライド



表層土壌の線虫採取に
線虫スコップ



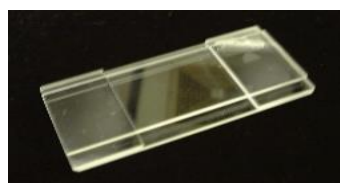
線虫の計数に便利
シラキュース時計皿



線虫の保存に
線虫固定皿



1ml 中の線虫計数に
線虫計数板



安価に計数したい方は
プラネット格子枠付スライド



長時間の視察にも目に優しい
シスト計数皿



株式
会社

藤原製作所

〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-46-16

Tel 03-3918-8111 Fax 03-3918-8119

E-Mail info*fujiiwara-sc.co.jp

☆詳しい情報はホームページで！→ <http://www.fujiwara-sc.co.jp/>